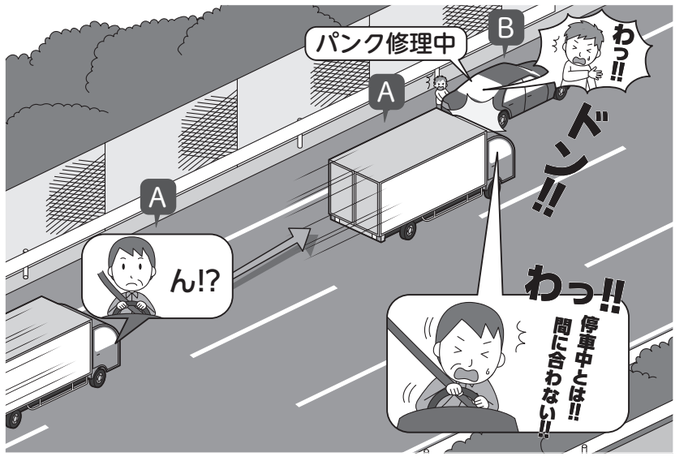
5分でわかる自動車事故事例 No.9

高速自動車道における追突事故

「まさか」の事態を想定して事故を防ごう！

事例プロファイル

事故類型：追突事故
発生日時：2月　午前5時頃



事故の概要

Aさんの状況

日の出の1時間ほど前だったので周囲はまだ暗く、風景の輪郭がおぼろげに見え始めたころ、Aさんは前照灯を点灯し、片側3車線の第1走行車線を通行していたところ、パンク修理のため停車していたBさんの車両に追突しました。

Bさんの状況

事故発生の少し前、Bさんは走行中にタイヤがパンクして運転継続が難しくなったので、なんとか路肩に寄せて停車させました。しかし、車体の一部は第1走行車線に跨がった状態でした。パンク修理のため車外に出て車の後方で作業をしていた時、 Aさんの貨物車がBさんの車両に追突してしまいました。

事故から学ぶ

この事故は3つの「まさか」が連鎖して発生したものです。

まず1つ目は、高速道路走行中のパンクです。高速道路走行中のパンクは、ガードレールへの衝突や路外逸脱、横転などの重大な車両事故につながりかねません。日常からタイヤの点検をするだけでなく、定期的に専門家に点検してもらうことが大切です。

2つ目は、「まさか追突されるとは・・」というBさんの認識の甘さです。高速道路では「停車すると追突される」という強い危機意識が必要です。やむなく停車する緊急事態では、発煙筒や三角停止板を使用して後続車への注意喚起を行うことが大切です。そして、通報を行った後は、簡単な修理であっても決して作業せず、追突に備えて路側帯外側の安全な退避場所を探し、避難することが重要です。

3つ目は、「まさか走行車線に停止しているとは・・」というAさんの油断です。業務運転手にとっては、高速道路は仕事場でもあり、運転し慣れた道路かもしれませんが、通行目的が観光・レジャーの一般運転手が流入する休日や早朝夜間は、普段以上に注意を向上させることが必要です。

（出典）公益財団法人　交通事故総合分析センターの資料をもとに、ユニバーサルリスクソリューション（株）が作成

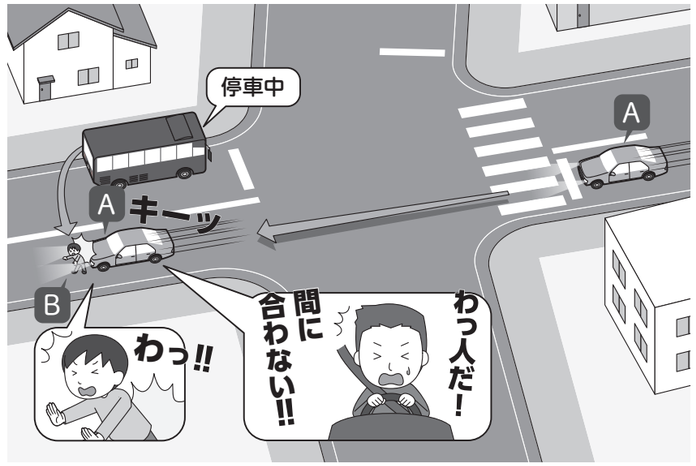
5分でわかる自動車事故事例 No.10

飛び出して来た子供と普通乗用車の事故

車はすぐには止まれない！先の状況を予測して運転しよう！

事例プロファイル

事故類型：出会い頭
発生日時：午後5時頃



事故の概要

Aさんの状況

Aさんは歩道がある比較的広い往復2車線の住宅街の道路を、閑散としていたこともあり時速約40㎞の速度で走っていました。信号機が設置されていない交差点先の対向車線に、1台のマイクロバスがハザードランプを点滅させて止まっていました。Aさんが何気なくマイクロバスの横を通過しようとした時、突然バスの後ろから小学生のBさんが飛び出してきました。Aさんは慌てて急ブレーキを掛けましたが間に合わずBさんと衝突しました。

Bさんの状況

Bさんはスイミングクラブの帰りで、送迎バスから降り、道の反対側にある自宅に帰ろうとバスの後ろから飛び出したところ、Aさんの乗用車と衝突しました。

事故から学ぶ

この事例は、子どもが道路に飛び出したために起きたものです。通常、運転者は危険を認知してからブレーキを踏むまでに0.5秒から1秒くらい掛かり、ブレーキを踏んでもすぐには止まれません。したがって、車を運転する人は、止まれる距離以上先の交通状況をあらかじめ観察し、危険若しくは危険になりそうなものを早く見つけたり予測したりして対処する必要があります。

Bさんの10歳という年齢は、交通ルールを体得していなければならない年です。交通ルールは守らないと命にかかわる重要なものです。子どもを持つ親や周りの大人達は、子どもが幼い時から交通ルールとそれを守ることの大切さを教えることが必要です。

（出典）公益財団法人　交通事故総合分析センターの資料をもとに、ユニバーサルリスクソリューション（株）が作成